

# 全日本ホルスタイン共進会の歴史について

第13回全日本ホルスタイン共進会「北海道大会」が、10月8日(金)から11日(月)までの4日間安平町で開催されます。

この記念すべき北海道初大会へ町民のみなさんに多数ご来場いただきたく、開催までの間、第1回から第12回までの全日本共進会の歴史と町内からの上位入賞牛を全6シリーズでご紹介していきます。

北海道初開催  
乳牛のオリンピック  
第13回全日本ホルスタイン共進会北海道大会  
会期：平成22年10月8日(金)～11日(月)  
安平町実行委員会

## シリーズ1

第1回全日本ホルスタイン種牛共進会(神奈川県)

参加者10万人

1951年(昭和26年)3月24～27日の4日間、神奈川県平塚市平塚競輪場を舞台に、30都道府県から出品者137名と157頭(北海道19名29頭)の出品の中、日本型ホルスタイン標準による審査を行うことを宣言し『わが国空前の乳牛の祭典』『世紀の祭典』が開催されました。

全国規模の共進会は、大正9年の畜産博覧会、大正11年の平和博覧会に次ぐ30年ぶりの3度目の開催になります。前2回の博覧会においては、乳牛といえどもホルスタインと共にエアシャー・和牛などが混在した共進会であり、ホルスタイン種としてはこれが初めての開催でした。当時、本州各府県の酪農地帯において乳牛の役用化が進められており、搾乳しながら田畑を耕し車を曳くホルスタイン種系の役乳両用牛が多数出品されていたようです。

## 【成績】

第1部1等1席 新田牧場(北海道厚別)、1等2席 町村善啓(北海道江別)

第2部名誉賞 宇都宮勤(北海道厚別)、1等1席 町村啓貴(北海道江別)

第3部名誉賞 町村啓貴(北海道江別)、1等1席 大平牧場(北海道八雲)、1等2席 山田一英(北海道安平村) 第1キングオブスベッスバーク



## — 当時の日本 —

1951年(昭和26年)の日本経済は、世界大戦によって壊滅状態となり疲弊の極みにありましたが、前年に始まった朝鮮戦争の特別需要で復興の機会を与えられた年でもあり、これを契機に日本経済は奇跡的発展を遂げたのでした。

酪農界においても飛躍的な復興発展の始まったさなか、昭和天皇陛下のご行幸と吉田茂首相の来臨のもと、全国酪農家の夢の祭典である第1回全共が華々しく盛大に開催され、これ以降の全共への「しるべ」が示されたのでした。

米10kg / 450円、タバコ30円、銀行員初任給3千円

※入賞牛の売買価格60～百万円

流行 パチンコ、板チョコ、VANジャケツト  
うた 高原の駅よさようなら、上海帰りのリル

※当初は1950年(昭和25年)11月の秋に開催予定であったが、当年初秋より猛威をふるった流感のため開催を延期して3月となり、第5回より10月開催となった。

第2回全日本ホルスタイン共進会(静岡県)

参加者20万人

1956年(昭和31年)3月23日～27日の5日間、静岡県静岡市にある駿府公園において開催。出品頭数は第1回全共の157頭よりも43頭多い200頭で、北海道からは21頭(10戸)が出品されました。この共進会では、審査区分が見直され、クラスを分け同一条件のもとで比較検討できるよう未経産牛の部が2分化され、系統繁殖の重要性を考慮し父系統群審査の部(娘牛3頭1組)を設け、さらには『日本乳牛の欠点である乳器の改良を促進するため』の乳器特別審査を試みるなど、第1回から大きく進化した形となりました。また「種系牛」においても、『日本ホルスタイン全体の改良の見地』から未経産牛のクラスが2部設けられ、経産牛と合わせ3部の構成となりました。

## 【成績】

第1部名誉賞 宇都宮勤(北海道厚別)、1等1席 町村啓貴(北海道江別)